



Iwate Prefectural Hanamaki Minami Senior High School

岩手県立花巻南高等学校

# 同窓会報



2014



●発行 岩手県立花巻南高等学校同窓会事務局 〒025-0053  
 岩手県花巻市中北万丁目288番1  
 TEL (0198) 23-4236  
 FAX (0198) 23-4365  
 URL : <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>  
 印刷 トーバン印刷(株)



## ご挨拶

同窓会長 瓜生 祐子 (高女33回生)

二〇一四年(平成26年)の初春を寿ぎ会員の皆様並びに関係各位に謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに、この一年が幸多き年でありますようにご祈念申し上げます。

さて、今年も世界に目を向けますと各種のスポーツイベントが目白押しに展開されることは喜ばしいことです。とりわけ二月のソチでの「冬季五輪・パラリンピック」や六月のサッカーのワールドカップの開催と、テレビ観戦に熱が入ることでしょう。又岩手県内では、二年後に二度目の国民体育大会の開催が決まりました。県では今、特にその選手の養成に熱が入っているようですが、是非我が母校の後輩の人たちから、代表選手に選ばれる事を願っています。自分も若かりし頃、陸上競技の岩手代表として出場経験がありますが、今思えばスポーツから学んだ多くのことが、人生に役立つと感じています。そのスポーツの基礎は母校でのきびしい教育があったからこそ成果があったと改めて感謝したものです。

その母校へ少しでも恩返しをするつもりで、現在の役職を受け、十二年が経ちました。そして創立百周年事業を推進する立場になりましたが、会員の皆様方からたいへんなご支援、ご協力をいただき遂行することができました。その当時の様々なことを振り返ってみます。

二〇一一年三月十一日、東日本震災の地震と大津波が尊い生命を奪った悲しい日。こんな大惨事があったのに、式典だの祝賀会だのとうつつをぬかして良いのか等非難され計画が頓挫したり、苦勞がたくさんありました。しかし時の流れが徐々に「復興」という気持ちに変わり、背中を押されて、立派なしかも盛大な記念事業を行うことができました。その中から抜粋してみます。

・二〇〇九年二月に創立百周年記念事業協賛会設立総会  
 ・寄付金集め開始  
 ・同窓生名簿作成  
 ・通用門竣工式挙行  
 ・記念樹植樹式  
 ・花南賛歌制作・謹呈  
 ・校旗謹呈

・同窓会音頭制作  
 ◎創立百周年記念式典  
 ◎創立百周年記念祝賀会  
 このように多くの事業を終えることができました。関係各位に深く感謝申し上げます。そしてすべてが終了した平成二十四年の三月に「いわての学び希望基金」に義援金として同窓会名で百万円を送りましたので、報告します。



菅野洋樹県教育長へ目録を手渡し

百年の伝統に輝く母校は会員の皆様方の団結力の強い絆で支えられています。

若い方々も積極的に参加し、新風をそそいでくださることを切に希望します。なお、平成二十六年度の総会のご案内をご覧の上、ご参加下さいますようご案内申し上げます。終わりにりましたが、母校の益々のご発展をご祈念申し上げます。

## ご案内

平成26年度岩手県立花巻南高等学校  
同窓会 総会

- 日時 平成26年7月13日(日) 午前10時20分より
- 会場 花巻温泉 紅葉館  
総会終了後、懇親会を行います。
- 会費 5,000円  
是非お誘い合わせの上、ご参加ください。





### 星めぐりの歌

校長 菅原 教 紀

校長室から真つ直ぐ中庭を見ると、生徒が登下校するアスファルトを挟んで、小径が続いています。その奥に「風林の碑」は佇んでいます。

『とし子 とし子 野原へ来れば』

また風の中に立てば  
きつとおまへを  
おもひだす

おまへはその巨きな  
木星のうへに居るのか

この一説は、岩手山登山で生徒を引率している宮沢賢治が、休息中に、前年に亡くなった妹とし子のことを想って書いた詩とされています。とし子の死から、しばらくは全く創作活動が出来なかつた賢治が、この「風林」の詩から、ふたたび、詩を作り始めているようです。

詩中では、とし子に促されるかのように不意に生徒たちのいる現実に戻るなど、子どもたちとの交流が、賢治の前向きな創作の力に

なつたと言われています。昨年11月下旬、岩手県民会館で「イーハトーボの劇列車」を観劇する機会がありました。こまつ座により14年ぶりに再演されたこの劇は、井上ひさしが同郷東北を愛する宮沢賢治を描いた作品です。

NHKで新春に放送された劇場中継のあらすじによると、「大正7年12月26日夜、青森発上野行き上り急行列車の車中に、岩手・花巻から乗り込んだ青年、宮沢賢治。東京で入院する妹のとし子を見舞う賢治のこの上京は、念願の独立をまくろむための旅立ちだった……。宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」「なめとこ山の熊」などが散りばめられ、笑いと涙の芝居である理屈抜きに家族で楽しめる作品である。」と紹介されています。

ユートピアを作る、という賢治の夢は、周囲の大人達には甘いと吐き捨てられ、暮らしに追われる農民達には全くの絵空事でありました。孤立する賢治は、夢と絶望の間を揺れ動き、唯一の理解者だった妹とし子を病で失ってしまいました。

劇中で歌われた「星めぐりの歌」、物語に散りばめられた「思い残し切符」は、賢治のやさしい世界のめあてであり理想郷への思いと感じました。

私は、同時期に、「終わらざる夏」(浅田次郎)を読み耽っていました。書店で何気なく手にした折りに、盛岡の描写から始まっているのが気になり、そのまま購入したものです。不思議なことに、文中に「星めぐりの歌」が登場します。疎開先から東京に戻るために逃げ出した女の子が、苦しい時に教員から教わったことを思い出し、励みにするのがこの歌です。環境や時代の違いがあるものの、歌う思いは同じような気がします。

「風林の碑」に秘められた賢治の思いは、教育者としての思いに重なることも

に、生きることへの希望にも繋がっています。そして、「星めぐりの歌」は、生徒達の行き先を照らす希望の光になっているとも考えられます。

高野台から移転し22年。百周年の節目を超え、姉妹柳のDNAが大地に芽吹く中、花巻南高校は同窓会諸氏の思いを胸に前進しております。これから担う人材の育成に向け、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

星めぐりの歌(宮沢賢治)  
宮沢 賢治・作詞作曲  
藤原嘉藤治・採 譜

あかいめだまの さそり  
ひろげた鷲の つばさ  
あをいめだまの 小さいぬ、  
ひかりのへびの とくろ。  
オリオンは高く うたひ  
つゆとしもとを おとす、

アンドロメダの くもは  
さかなのくちの かたち。  
大ぐまのあしを きたに  
五つのばした ところ。  
小熊のひたいの うへは  
そらのめぐりの めあて。

### 役員寄稿

常任理事 葛 巻 久美子(南高18回生)

三月一日は私たちの母校の後輩達が卒業式を迎えます。

その前日、翌日に卒業を控えた三年生の同窓会入会式が行われます。

卒業式の準備も整い整然とした体育館に、三年生全員、教職員の方々、同窓会役員が一堂に会し入会式が始まります。

昨年は、瓜生会長以下副会長、常任理事、監事の八名が同窓会役員として出席しました。

同窓会副会長が、卒業を迎える三年生の同窓会への入会を歓迎する挨拶を述べました。そして、平成二十四年度の卒業生は南高同窓生の60回生となり、一組から五組までそれぞれのクラスを代表して幹事を担当する計十名が、私たち役員に紹介されました。

その後、毎年七月に盛大に開催されている『同窓会定期総会』への出席を促す初の試みとして『平成25年

度定期総会招待状』を60回生に対して十人分寄贈しました。



今年も二月二十八日、南高61回生の同窓会入会式が行われます。

卒業生のみなさんは、同窓生の立場になることを意識する初めての機会になると思います。本校同窓会の存在の認識を確実なものにしてもらい、卒業と同時に伝統のある花巻南高校同窓生の一員となったことを自覚する大切な機会にしたいと思っています。



平成24年度同窓会入会式

# 平成25年秋の叙勲

## 旭日双光賞受賞

加藤 綱男  
(南高3回生)

### 味道佛心

私はここ数年は調理場を飛び出して、テレビやラジオ、専門学校、講演会を通して料理を教え、あるいは料理人の生き方について語る機会が多くなりました。ますます多忙を極める様になった訳ですが、それに乗るだけの沢山の心を得る事が出来ました。皆様にきちんと教え様とすると、私も



四條真流儀式庖丁式

勉強しなければなりません。

特にテレビ、ラジオなどでは、教える相手が料理人でありませんから主婦にもおばあちゃんにもわかる様に話す必要があるのです。それが随分と勉強になります。それがかけがえのない財産になっています。

時間や身を削る努力は、少しも惜しいと思っていませんが、それより勉強の機会を逸することの方が、人間として比べものにならない程惜しい。そう思っているから自然に「知識の道は喜びの道である」という言葉が口をついで出てまいります。

人生の充実期、しかし同時にこの時期は、一人息子の死という人生で最も辛い試練を乗り越える時期でもありました。夢中で仕事に没頭し、活動の範囲を広げてきたのも、悲しみから逃れ様とする気持が無意識の内に働いたからかもしれま



皇居宮殿

せん。この事をきっかけに若い人達の姿と息子の姿を重ねて見る様になって行きました。岩手の若い調理師達一人一人に、料理の道をまっとうしてほしいと思います。

平成12年現代の名工、14年黄綬褒章を拝受し、25年旭日双光章を拝受の栄に浴し、皇居豊明殿に参内し、二度も天皇陛下の拝謁を賜り、有難きお言葉を頂戴し身に余る光栄に感激いたして参りました。これもひとえに皆様方のご指導の賜物と深く感謝いたしております。今後一層

精進いたす所存でございますので、ご芳情賜りますようお願いいたします。

石鳥谷新亀屋 つなお  
智恵もなし

腕もなし

私にあるのは  
思いやり

## 瑞宝単光賞受賞

照井 浩氏  
(旧 鎌田)  
定時制昭和29年卒  
(元北上市消防団副団長)



(ご紹介)

昭和41年から36年間にわたり、北上市消防団団員として、消防業務や団員の資質向上に尽力されました。

北上市消防団副団長・分団長を歴任。入団してすぐに起こった黒沢尻西小学校的火災が印象深く、凍えるような大変寒い中での消火活動が思い出されると当時を振り返り、受賞については「心に響く受賞で、とても驚いています」と喜びを語られました。

# 平成25年度全国社会福祉大会会長表彰受賞 会長表彰状を頂いて

藤井 邦子 (南高3回生)

南高を卒業したのが昭和30年で、家庭を持つてからも様々なボランティアにめり込んでしまう生活をしてまいりました。子供の小学校のPTAの役から始まり、最近では福祉関係の民生委員を平成25年11月末に退任まで18年間務めさせて頂きました。

民生委員の関わりは、急速に進んだ少子高齢化と一人暮らしの高齢者の増加にもなった地域の役割として、又、児童に係わる事等、微力ながらも地域に寄り添って関わる事が出来た事に大変意義深いものがありました。

さてこの度平成25年11月15日に東京の日比谷公会堂にて全国福祉大会会長表彰状を頂いて参りました。私にとって、身に余る事でした。色々困難にぶつかる時、挫けそうになる自分自身を励まし続け、社会と関わりながらやってこられた事が今の自分を作ってきたと思っております。

当日は宇宙飛行士の毛利さんの講演もありました。毛利さんは、最初の飛行と、その8年後にと、2回も宇宙に行ってみることが出来ました。地球が温暖化で大分変わっている事が見られたとの驚くような講演を聴くことが出来ました。

中国の大气汚染、マスクをしなければ外出出来ないなどのニュースを見るにつけても、日本にいる私達も一人一人がそのことに気をつけて暮らして行かなければならないと、あらためて思いました。



日々谷公会堂前にて：写真左端

## 恩師寄稿

## 「あれから三年」―懐かしい出会い―

菊池 豊先生

平成23年3月1日の卒業式、そして8日の入学者選抜試験と大きな学校行事も終わり校内に何となく和やかな空気が漂う3月11日、突然の激しい揺れ、一瞬にして恐怖と緊張感に包まれました。やまぬ余震の中、校内生徒への避難指示、市内ホテルで進学相談会に参加している生徒・職員の安否確認、JR・バスの運行状況の確認、遠方の保護者への迎え依頼、校舎や施設等の被害状況の把握等々、最終的な生徒の帰宅は、学校で午後8時頃、花巻駅で午後11時頃と報告を受けました。翌日からは生徒・保護者、教職員の被害状況の確認、入学者選抜会議、年度末一般人事異動の凍結に伴う来年度校内分掌の改正、年度末職員会議、終業式等の行事変更、来年度行事等の見直し、創立100周年記念事業に係る推進計

画の検討、被災地・学校への支援活動の検討、校長人事の突然の差し替えに伴う引き継ぎ、臨時職員会議、3月下旬開催予定の第34回全国高校ハンドボール選抜大会花巻大会開催の中止決定、県教委や関係機関との連絡調整等々、「東日本大震災」対応に追われる怒濤の20日間でした。3月31日、最後の決裁を終えたのが午後5時、思いを教職員に託し、38年間の教員生活に終止符を打ち南高を後にしました。心配された創立100周年記念式典・祝賀会も同窓会を始め多くの関係者の方々からのご支援とご協力をいただき、この年の10月1日、盛大に挙行され同窓会の皆様と共に祝うことが出来ましたことは大きな喜びとなりました。

ア教育・支援に携わっています。南高出身の学生が学業や部活動に励む姿や同窓生職員の真摯な仕事ぶり、また先日は大学センター試験会場である本学で真剣に取り組む南高生の一生懸命な姿等々、逆に励まされる機会も多く元気を貰いながら務めています。「最後の風体似合ふことを習ふは、最後の初心なり」(「風姿花伝」)の如く、老いていく人生の中で、その時々工夫をし、自分なりに考え歩んで行けたらと思っています。

さて、話は変わりますが、昨年の12月15日(日)、「卓球部」OG会に招かれ、30数年振りの再会に楽しい一時を過ごしました。幹事の粹な計らいにより会場は「まなび学園」3階研修室(旧花南校舎3年2組教室)でした。会場に向かう階段の踊り場に差し掛かるともう明るい話声が響いてきました。ドアを開けると遠くは東京からも駆けつけた懐かしい8人(昭和51・52年度卒業生)の笑顔が迎えてくれました。そこは当時の

教室の光景がそのまま、時間が止まったような不思議な感覚にとらわれました。会が始まるや否や一瞬にして時空を飛び超えあの時の南高乙女に戻っていました。日々の練習や合宿、遠征や大会、厳しい先輩や面白い後輩、そして先生方の話題等々、よくぞそんなことまで覚えていたものだと思心するほど尽きない話に花が咲きました。私も一瞬にして青年教師に戻り思い出を辿りながら聞き入りました。辛く苦しくことも楽しく思い出として語り笑える良き人生を歩んできているなあと感じました。美味しい昼食やスイーツをいただきながら時の経つのを忘れ、あつという間に5時間が過ぎてしまいました。話題の中で一番嬉しかったことは、出席した2人の子どもさんが母校である南高に在学していることでした。ぜひ母親に負けないような南高生として活躍して欲しいものと願っています。

今思うに、「教えることは学ぶこと」と言われますが、初任校の南高は教育活動の原点あり、教師として



「卓球部OG会」

花巻市まなび学園3階研修室

(旧花巻南高校3年2組教室)

(残念ながら1人が撮影していません)

定期総会に参加して

鳥取 ヨシ  
(高女26回生)



高等 女学校  
26回卒 業とい

いますと、年齢は91才になっております。したがって同級生も少なくなり、暫く南高の同窓会を欠席しておりました。

ところが今年、瓜生会長さんからお誘いを受けまして、暫くぶりに同窓会に参加しました。

会場は千秋閣の大広間で受付の方も親切で会場の指定席迄案内していただきました。席は卒業年度別で



しようか、若いグループの方々は楽しそうに話し合いをし、うらやましい限りでした。

会場に貼られた同窓会の文字を見たら母校の様子が走馬燈のように浮かんできて懐かしさが込み上げてきました。

総会は予定通り開始され事務局からの報告がありすべて承認されました。そして総会の終わりに、90歳以上の私達は立派な花束をいただきました。ただただ恐縮するばかりでした。おかげさまで目も耳も不自由なく今日迄生きてこられたことに、あらためて有難さを感じました。ここに同窓会の会長さんをはじめ、関係の方々に対し深く感謝を申し上げます。有難うございました。

又、第2部のアトラクションは、各学年の卒業生の方々の楽しい余興が次から次へと行われ、我を忘れて楽しみました。

懇親会では学生生活に戻ったようないろいろな思い出話に花が咲き、話しは尽きませんでした。又

他の学年の方とも暫くぶりにお会いし、手を握りしめ乍らお互いの無事を確かめ合い懐かしさでいっぱいでした。

暫くぶりに参加した同窓会もあつという間に時間が過ぎてしまいました。同窓会はこのなにも有意義で楽しいものであることをつくづく感じた一日でした。

最後に南高校の発展と、同窓会のますますのご盛会をお祈り申し上げます。



初めての定期総会に参加して

鎌田 竜司  
(南高60回生)

私が母校である花巻南高等学校を卒業してから、およそ一年が経とうとしてい



写真左が鎌田さん

ますが、今回7月に開催された母校の同窓会の定期総会に60回期生の代表として参加させて頂きました。

私は、定期総会に参加している最中に思ったことが二つあります。

まず一つ目は、この花巻南高等学校は同窓会の方々をはじめとする沢山の方々に支えられている学校だということを感じました。

私が在学中はそのようなことは殆ど思いませんでしたが、今回のように沢山の同窓生の方々が集まる定期総会に参加して、沢山の方々のサポートがあつてこそ南高校だったのだと感じました。

振り返ってみれば、私が高校2年だった時に盛大に挙行された100周年式典

も多くの方々の、様々なサポートがあったからこそ、無事に式典を催すことができたのだなと思つています。

二つ目は、私事ではあります。今後は私も在校生を支えていく立場なのだと感じました。当然のことですが、卒業して間もない私は、正直な所同窓生になる意識があまりありませんでした。しかし、瓜生同窓会長をはじめとする方々のお話を聞いて、今度は私が在校生の皆さんをサポートしていかねければならないのだと実感しました。今までの同窓生が、支え続けてきたように今度は私たちの番なのだと再認識しました。

話は若干逸れますが、今年度は野球部が4回戦まで進んでくれたことに私は、非常に驚きと嬉しさで一杯でした。私がつもっていた頃は、3年間1回戦で敗れていたもので、残念でしたが、今年度は4回戦まで進んでくれて、後輩の活躍が特に目立った年だったと私は思っています。

また、野球部以外の部活動の活躍も聞こえてきており、皆さん一生懸命、日々取り組んでいるのだなと嬉しく思います。

勉強と部活動に真剣に向き合えるのはこの3年間の高校生活を逃せば、後はないと思つていきますので、今後、勉強と部活動には真剣に向き合い頑張つて欲しいと思います。

また、今しかできないことに一生懸命になり、後悔しないように過ごしてください。残された高校生活の時間を大切にしてください。

皆様の活躍をお祈りしています。



# 会員だより

## 古希を迎えて

佐々木雅子  
(南高10回生)

花巻南高校を50年前に卒業。中学校の教員を40年務め、定年退職してから9年になりました。

古希を迎え、改めて年齢を強く意識し、高齢者として、これからどう生きていけばいいか。

退職してから現在に至るまでの生活を振り返り模索しています。

思えば、長年の教員生活を通して、多くのことを経験し、学ばせていただいたことは、大きな財産です。

しかし、時間に追われ、気がつかないうちに、何かが欠けていたような思いに駆られました。

まず、憧れていた主婦の生活が始まりました。

思った以上に、台所仕事

が自分に合っていることに気付き、ちよつと満足に浸

りました。時間がたつぷりあるのに、家事が結構時間を要し、専業主婦の仕事も立派な家事労働であることを実感しました。

そのうちに、時間を上手く使うことで、楽しむ時間も生まれました。

先に退職していた夫の趣味の感化を受け、旅行、音楽、プロ野球観戦にはまっています、楽しさを共有するようになりました。阪神のファンで、毎年一度は甲子園に行き、あの熱狂的なスタンドで観戦する臨場感最高の元気の源となりました。また、音楽の魅力にも影響を受け、一年の締めくくりとして、年末はNHKホールへ行き、人々の平和を願う「第九」の演奏を聴くことも、恒例の楽しみと なっています。

ところが、平成23年3月11日の、あの大きな打撃を被った大震災が起きてしまったのです。

多くの犠牲が生じ、毎日を当然のように送っていた

私たちは、大切にしなければならぬことが何であつたかを思い知らされました。

3年が経ちますが、破壊された町も、人々の心も、復興はまだまだ進んでいない現状で、この中で、震災の後を生きていかななくてはならないのです。

戦中、戦後を知る夫は、戦後の惨状と同じだと言います。今なお避難生活を

送っている人たちが、二十数万人もいます。

そんな中で、少しずつ元気を取り戻し、立ち上がろうと努力をしている人たちや、それを支え、応援を続けている人たちも沢山います。

新聞やテレビで、音



花巻南高校第10回生古稀並びに卒業50周年祝い 平成25年7月14日 於 花巻温泉 ホテル千秋閣

楽の力が、人と人との心をつなぎ、幸せにし、励ましてくれることや、スポーツが、楽しさや元気を与えることを目にします。

古希を迎えた私に、一体何ができるか。

被災者に思いを寄せながら、募金協力を続けたり、被災地の生産品を購入したり、できることは限られてしまっています。

でも、共に復興を願い、

健康に気をつけ合い、元気であること。

そして、希望や楽しみを続けられるように生きていくことで、心が豊かになれば、人にも優しくなれます。

模索しながら、今できることを大切に、年を重ねることを怖れずに、一歩ずつ前進していこうと思えます。

論語より、

『七十にして、心の欲する所に従いて、矩を踰えず』

## 花巻南高校の思い出

佐藤 雅子  
(南高18回生)



花巻南高校を四十年前に卒業し、ひたすら看護の道、そのほとんどは助産師として歩んできました。そして昨年3月選任を定年退職と同時に公立病院を定年退職いたしました。最後の10年間は単身赴任で県内各地の病院を転勤し、自宅に戻

るのは週末だけ。退職した今は、少しは家族孝行もと思ひ自宅でのんびりと過ごしております。高校時代の3年間は所属していたソフトボール部で明け暮れたように思います。当時の私は厳しい練習についていくのが精いっぱいだったように思います。今では懐かしい思い出となっており、中でも北上市の展勝地グラウンドで行われた東北大会での優勝は清々しい思い出となつて残っております。某新聞社の取材が入り、翌日の朝刊にユニホーム姿のチームメンバーの写真が掲載され、誇らしく眺めたのが昨日のように思われます。

また、授業中の忘れられない出来事が十勝沖地震でしようか。ちょうど英語の授業中、バリバリと天井の蛍光灯が片面はずれ、教室に避難の指示のもと必死で階段を駆け下り外に出ました。なおも地面が揺れていて、背筋が寒くなるような思いをしたことを覚えております。落ち着いてから担任の先生からお話しされ

たことは、当時の体育館は木造建てでしたので、「体育館の屋根がゆらゆら揺れ、瓦が飛んでけ人が出なければいいと、先生方が祈るような思いで全員が避難するのを見届けていた。」と。改めて皆が無事で本当に良かったと思つたものでした。

そして、勤務二十数年経つた頃、職場での海外派遣研修があり、北欧の医療施設等視察しながらフランスのパリに立ち寄つた時のことです。コンコルド広場やベルサイユ宮殿等、フランス王朝全盛期からフランス革命周辺の状況を目の当たりにした際、一瞬にして南高校時代の世界史の授業にタイムスリップ！当時世界史を教えてくださった故木村先生が、「レイ16世が、マリーアントワネットが、そしてジャンヌダルクが救世主となつて」と、皆が吸い込まれるようにして聞いた遠い国のお話。それが今目の前に広がっているとすると、それはとても感慨深いものがありました。その他にも沢山の

教わつたことや読んだ本など、自分自身の目で直接見、出会うことができ有意義な時間を過ごした思い出となつております。

仕事から複数の職場を経験させていただき、多くの方々との出逢いから常に学びの環境で働けたことに感謝し、今でも続いている友人たちは私の人生の宝物と思つております。赴任先の職場で南高校の卒業生に出逢い、活躍している様子を見、頼もしく思つたものでした。特にも最近の出来事ですが、同じ職場に、難度の高い認定看護師として活躍していたスタッフが同窓生（後輩）だと知り、お互い驚きながら一層彼女を誇らしく思いました。今後益々活躍されることを願っております。

毎年の支部総会におきましても、在校生の多くの活躍を伺い嬉しく思つております。高校時代の思い出から現在まで想うままに綴らせていただきました。

最後になりましたが、花巻南高校同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

## 「人と人・・・繋がりの大切さ」

石亀 桂子  
(南高38回生)



南高 校を卒業して から23

年が経ちました。長いようで短いように感じます。私は高校ではバレー部で3年間汗を流し、そして学校行事に燃え、仲間とともに過ごした時間は今では良い思い出になつていきます。

高校卒業後は看護学校に入学し、養護教諭を目指していましたが、病院実習で関わつた患者さんとの触れ合いや、看護の学びから、看護師の道へ進路変更することにしました。今では看護師という選択は正しかったと思つています。看護学校卒業後、岩手県立北上病院に就職し、現在は岩手県立中部病院で働いております。看護師としての仕事は不規則な勤務であり、大変さもありますが、やりがい

もあります。私は8年前に1年の研修期間を経て「皮膚・排泄ケア認定看護師」の資格を取得しました。その領域の専門的技術や知識を生かした患者さんと関わる仕事、研修会を日々行つております。今は看護師もいろんな専門分野での特化した技術や知識を生かせる時代になつていきます。

今回、理事の依頼が前任者からあり、考えた末に引き受けることとしました。38回生の理事として会議に初めて参加させて頂き、瓜生会長をはじめ、先輩の方々の熱い気持ちに対して本当に素晴らしいと思えました。当番監事のため準備や企画をしなければならぬということも話され、どのよう

に同級生に連絡するか、練習はいつ、何をやるか本当に悩みました。唯一連絡の取れる同級生に連絡し、人集めに協力してもらい、練習場所の確保と時間調整を行いました。余興については、私の娘が小学生だった頃の謝恩会で父兄が踊つたダンスをすることにしました。練習に参加できたのは

4人でしたが、私は本当に嬉しく涙が出そうになりました。久しぶりの再会で、練習よりも会話が弾み、高校時代にタイムスリップした気持ちになりました。当日は6人で、若かりし頃の制服や、着ぐるみを着て汗を流しダンスしました。その時のみんなの笑顔と達成感はとても良い思い出となりました。



今回参加できなかつた親友からは、次は是非参加するからと声をかけられ、友達との輪は大切にしなければいけないと痛感しました。次の10年後はもつと同

級生を集められるようにしたいなとみんなで心に誓いました。今回、私は懇親会の司会もさせて頂きました。若輩者の私が司会を担当することになり、先輩の方々に心配させてしまったのとは思いましたが、サポートしていただいた先輩のおかげで何とか無事に役を終えることができました。本当に感謝しております。同窓生という繋がりがこんなにも深いものだと思います。でも今回の経験は私にとつてとても貴重な体験でもありました。人と人との繋がりは将来もずっと大切にしなければならぬのだと思います。

仕事や子育てと色々なことが強いられる年齢ではあります。今、娘も南高校で勉学と部活動と頑張つていきます。学び舎は違えども伝統の花巻南高校で学べることに親子で感謝したいと思えます。末筆ではございますが、花巻南高校のますますのご発展と、同窓会の更なるご盛會を祈念いたします。

# 支部だより

## 東京支部

支部長 岩切 悦子

(南高16回生)

60年前、子育てや仕事に忙しく、岩手の郷里に帰りたくても帰れない南高卒業生のお母さん達が何人かが集まったのが東京支部発足のきっかけとおききました。平成25年4月14日、上野精養軒藤の間で、その記念すべき第60回の同窓会東京支部総会が開催されました。

桜前線が足早に咲き急ぎ瓜生祐子会長様、菅原教紀校長先生はじめ本校からのお客様を葉桜でお迎えすることとなりました。60回を祝して岩手からわざわざおいで下さった同窓の皆様にも合わせて御礼申し上げます。ありがとうございます。当番監事南高25回生の内田様、福井様、菊池様、直井様には受付、司会等ご協力いただきました。古川精一様のコンサート、杉村俊博様の歌唱指導

をいただきながらの講演等、なごやかなひとときを過ごしました。

還暦を無事のりこえて、新生第61回の総会は

平成26年4月13日(日)

上野精養軒 12時より

予定しております。緑香る上野の森でおめにかかるとの楽しみにお待ち申し上げます。



花南高等学校同窓会 東京支部 60周年  
平成25年4月14日 於 上野 精養軒

## 盛岡支部

支部長 堤 世知子

(南高2回生)

平成25年度の盛岡支部総会並びに懇親会は、10月27

日(日)午前11時より、「サンセール盛岡」を会場に開催されました。

当日は、母校から副校長鈴木孝由先生、事務局の佐藤陽子先生、同窓会から、会長の瓜生祐子様、副会長の佐藤貴子様、同窓会幹事の石川映代様をお迎えし、同窓生は高女27回生から南高19回生までの85名、総勢90名ではじまりました。

総会での副校長先生のご挨拶では、5月27日に姉妹柳の植樹式が行われたことや、在校生の部活動や、進学、就職状況など、学校の様子が話され、野球応援が羨ましかった南高時代のことが思い出されました。

総会では、回生毎に参加者が紹介され、活動報告や、決算報告がなされ、承認されました。

総会に引き続き17回生の担当で、懇親会が進められました。

同窓会長瓜生様から今年の総会は約300人が集まり、百周年が終わっても同窓会活動が盛んなことが話されました。姉妹柳についても、切られる寸前に助け

たお話などをされ、植樹式が行われたので、懐かしい柳が現校地でも元気なことが話されました。ただ現在同窓会活動は、若い人でも60代であり、老人が元気なことは良いことだけれど、組織として、若い人の参加をどうするかが課題だと、今後の事が話されました。

副会長の佐藤貴子様のお乾杯のご発声のあと、しばし食事を頂き、会話がはずみあちこちから笑い声も聞こえました。今回のお菓子は、監事の心づかいで「和くるみ糖」が用意され、食べてつながろうという復興支援のお菓子で、甘くておいしいものでした。

その後余興に入り、5回生村上京子様様の詩吟、「ふるさとの山」「心に太陽を 持て」が吟じられ、素晴らしいお声に感動しました。2番目に、10回生黒川俊子副会長が、ハワイアンフラ

「月の夜は」を踊られました。その後思いがけず、全員に「レイ」が配られ、レイを首にかけて、全員での「フラ体験」でした。フラは、言葉を体で表現し、手で話

をしているだとの説明のあと、「月の夜は、浜に出て、みんなで踊ろうヤシの木かげ」、2番3番も歌詞にのせての柔らかい手のふり、腰の動き、足運びなどを教えていただき、全員で楽しく踊り、貴重な体験をしました。



来賓の皆様との花南讃歌の合唱のあと、本校の総会に出演された、17回生の杉本摂子様「花詩集」「花巻の四季」「人生は美しい」「オーシャンゼリゼ」と懐かしい花巻をうたった歌やシャンソンなど美しい歌を聴かせていただきました。

最後に全員が輪になって同窓会音頭を踊り、7回生の中村ウメ様様のピアノ伴奏で校歌を斉唱し、高校時代を思い出しました。熱気が

## 北上支部

副支部長 佐藤 恵子

(南高16回生)

北上支部は隔年総会の開催となっております。平成25年は総会の開催がありませんでしたが、次のように活動しました。

25年1月29日(火) 支部役員新年会(和食ダイニングきたかみにて)

5月18日(土) 本理事會参加(ホテルグランシェール花巻にて)

7月17日(水) 花南同窓会参加(ホテル千秋閣にて)

11月6日(水) 支部役員会(サクラホールにて)

平成26年北上支部定期総会についてを議題にしました。

一、日時 平成26年6月15日(日) 一、会場 ホテルシティプラザ





一、講演  
沢内碧祥寺  
御任職太田宣承氏

一、準備会日程  
月一回開催(総会当日迄)  
花南6回生、17回生

一、参加者増加対策について  
特に同級生への声かけを密に致しましょう!  
(気兼ねなく気楽に参加出来ますように)

他に26年役員新年会について、

一、日時 1月30日(木)

一、会場 シティプラザ日高見

一、会費 2,000円

新年会に於いて、昭和29年定時制卒業の照井浩様が瑞宝単光賞を受賞されましたので、お祝いを致しました。

た。照井浩様は北上市消防団副団長を歴任され、長年市民の安心、安全のためにご尽力頂きました。心からお祝い申し上げます。

北上支部は男性会員も一緒に活動いたしております。

今年はお陰様で照井さんの受賞祝いでめでたい一年のスタートです。

6月15日の総会の大盛況を願い、役員を大事にし一人でも多くの会員参加を目ざし、月に一度の役員会をつめて参ります。

北上支部は年間5000円の会費で運営しております。隔年の総会なので総会開催年、2年に一度2年分の1,000円の会費を活動費としております。

会費は七百余名の同窓生が在住しているのですが、会員の5パーセントぐらいしか、参加して頂けないので何とか、輪を広げていきたいです。

どうぞ北上支部の皆様、今年の総会は6月15日です。お誘い合わせのうえご参加頂きますようお願い申し上げます。

### 石鳥谷支部

支部長 上山 準子 (南高10回生)

末筆ですが、花巻南高校の益々の発展と同窓会の益々のご盛會を祈念しております。

平成24年6月末日、支部長をお受けしてから、初めてのお役は、7月8日の本部総会への出席でした。

支部事務局の菊池さんに同行して頂いたので会場までは安心でしたが、中に入ってから別々になり、戸惑うばかりで緊張の連続でした。全ての日程が終わり、ホッとした車の中で、温かい言葉をかけてもらいながら帰って参りました。

次は、25年3月27日に催された同窓会主催の「叙勲を祝う会並びに送別の宴」への出席でした。

村田千代様(5回生)の旭日双光賞受賞と、100周年の年に着任され、記念事業にご尽力下さった、吉田文夫校長先生の御退職の御祝いでした。

そして年度がかわり、25

年5月18日、本部総会に向けての準備会がありました。

その折、吹奏楽部の定期演奏会が、同月25日に開かれることを知り、夕方、花巻市文化会館に出かけ、若さいっぱいの演奏を聴いてまいりました。

7月14日、25年度の本部総会がホテル千秋閣で開かれました。2回目の出席ですが、前回の事を覚えていなくて、また緊張するばかりでした。

支部といたしましては、25年4月と7月に執行部会を開き、新会員・転入・転出等の名簿整理をいたしました。

個人情報厳しく言われはじめてから、空欄が目立つようになりました。

26年度の総会に向けて、いろいろな方々の御協力をいただきながら、進めて参りたいと思っております。

最後になりましたが、今年の11月中旬、支部にとりましてとても悲しく、残念でならない事がありました。

本校創立100周年祝賀

会に百歳でご出席下さいました佐藤ミキ様のご逝去になりました。

ご葬儀には同窓会長瓜生祐子様、同副会長齋藤ワカ子様、同副会長佐藤貴子様、同幹事石川映代様にご参列下さいました。ありがとうございます。

ミキ様は24年6月の支部総会にも出席いただきました。長きに渡り、率先してご出席下さり、私達に勇気と希望を与えてくださいました。

百歳を超えられてなお、お料理やお買物が大好きだったとご家族の昌子さん(6回生)が話しておられました。

いつでも前を照らして下さっていた、大きな大きな光が消えてしまい、今はただ、ご冥福をお祈りいたすばかりでございます。

### 東和支部

監事 木川田和子 (南高9回生)

度は総会のない年でもありかねてから課題になっておりました東和支部名簿の見なおしに取り組みました。

新会員の呼びかけ、現会員の異動等整理して新たに作成しようとして役員一同頑張っています。

年が明け平成26年度、数々の心残りを新しい年の希望に託し大した飛躍ができなくても、元日には今年こそはと心に決め50年、60年、70年と人生の坂道を登りはじめます。平穩な年でありますようにと願いつつ。昨日と今日には変わりが無いのに元日もなるとなぜか心があらたまるから不思議です。1年を365日と区切った昔の人の知恵には感謝するのみです。

頭で忘れようと思っても忘れられないこともあるし忘れまいと思っても忘れてしまうこともあります。東日本大震災は忘れてはいけな立場から語り伝え、防災に役立てる努力をしなければなりません。鶴住居に住んでいる私の友人も被災し、着の身着のまま逃げ

東和支部では総会及び懇親会を隔年に行うことが恒例になっており、平成25年

命だけは助かりました。数日後に新聞で名簿の中に彼女の名前を見つけたときは嬉しくて涙が出ました。現在四畳半の仮設住宅で布団を敷くにも狭く座布団を並べて寝る生活、流し台はあつてもマナ板を置く場所がない、音を立てれば隣に気遣いの生活、脚を伸ばして安心して寝たいもの時々私の所に泊まりにくるのです。被災者の中には体調を崩すお年寄りもいるそうです。

福島原発事故の処理もまだまだです。長年住み慣れた場所を離れ、働く場所を失い、家族がばらばらになり子どもの健康が危ぶまれるなんて想像を絶するところが現実には起きているのです。行政が一日も早く安心して暮らせる環境を整えてあげてことを望みます。

私には分かるようで分からない特定秘密保護法の成立や東京五輪招致に力を注いでいた昨年でしたが、被災された方々のことを考えると、そんなのどうでもよいと思うのは私だけでしょうか。

さて、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことは誇りに思いますが。伝統に深く根ざし四季折々の風情を料理に託す繊細な感覚と技術はすばらしいものです。餅に明け餅に暮れる1月に七草がゆがあり、芹、なすな、ごぎょう、はこべら、仏の座、すずな、すずしろと七種の草を白のお粥に入れて食べるといいです。お正月で食べ過ぎの胃袋を休める意味と解毒の意味があるそうです。仏の座とは蓮のことかと聞かれて、吹き出したことがあります。小正月にミズキダンゴ、桃の節句と山の神：行事の度につくられる郷土食に昔の人はがんばったなあと感心します。私などはあちこち略してしましますが、これを機会に見なおしてできるところから実行していこうと思っています。

今年も会長さんを中心に同窓会の皆さんが一つにまとまり楽しい会としたいと思います。どうぞ宜しく願います。

文芸作品 (エッセイ)



ランチタイム

清水 意久子  
(南高16回生)

女性のストレス解消法は、ショッピングや、気の合う友人との食事会なそう。私もご多分に漏れず、誘われると即答で出かける。普段着よりもチョットお洒落するのも気分転換になる。

毎月元職場の友人5人で、旅行積み立てをしながら、市内や北上方面に出かける。お昼ころに集まり賑やかに会話が弾むと、3時間くらいはアツという間に過ぎる。

時には斜め向かいの人と話しがクロスすることもある。帰るときに「中華飯のエビ、プリップリでおいしかったね」と言われ「アレっ入ってたっけ」と記憶に無い話しをすると「おしゃべりに夢中だったものね」と冷やかされた。

以前夫が「男なら酒飲みながらわかるけれど、何

そんなに話すことあるんだべな」と呆れていた。

師走のある日、「学び学園」で趣味の講座に出席した。風邪気味なので、昼食は温かいものにしようかなと、先生の話を傾けながら考えていた。手元の紙コップに「お昼いっしょにどうですか」と書いて、席が近くの人から回覧した。隣のGさんは「いいよ」の返事、後ろのHさんは「これから仕事だから」と残念そう。前のIさんは「用事あるので遅くなるけど行ぐがら」と言ってくれた。

2人でMデパートの食堂に向かった。熱々の鍋焼きうどんを食べ、汗が落ち着いたところ、Iさんがやつと到着した。Iさんに合わせて私達たちもソフトクリームを注文した。

60から70才代の話題の中心は、眼下に広がる街並みの昔話だ。「坂道は大分道幅広くなったし、マンションも建ったけど、人通り少ないナハ」と私が言うのと、「坂の途中に駄菓子屋あつたけど、今は子どもが少なくなつたネ」とGさん。「学校帰り、パチンコ屋の前通ると玉落ちで」と昭和30年代の気風が感じられる話しをしながら、苦笑するIさん。店がたくさん開いて行き交う人も多かつたねと雑談していると、後方から声がした。

「まだ居だつたのー」と仕事を終えたHさんが来てくれた。そろそろ帰ろうと思っていたが、時間差で4人になつたので、さっきの話しの続きになつた。南高で同級生の彼女は「クラブ終わるとお腹空いて、ここでラーメンとか食べだつた」と今日も、ラーメンとご飯物を食べながら、懐かしそうに当時に思いを馳せている。

私も2年生のときに、先生の吹奏楽部に入部して、クラブの仲間と連れ立って食事に来たことを思い出した。校門を出て松並木から

花川橋を渡り、通称「女学校通り」を流行歌を口ずさみながら、狭い坂道を下りてきたものだ。

昔話に花が咲いて、ふつとあたりを見回すと、大分席が空いてきている。西日が眩しくて、ブラインドを降ろしてもらつた。まだまだ話しは尽きないが、もう夕食の献立を考える時間になつていた。

3月には講座の先生や仲間たちと食事会をしようと決めて、解散した。

温かい食事と講座で知り合つた仲間との会話で、家路へ急ぐころは、心も体もポカポカだつた。

今まで出会つた多くの人々と、食事を共にすることで、心が打ち解けあつたり、楽しい発見もあつた。声を掛けられたら、喜んで食事を楽しめるように、健康な日々を過ごしたいと思う。



Mデパートの大食堂から高野台を望む

# 平成25年度 同窓会事務局日誌

平成25年

4月6日(土) 入学式

4月14日(日) 東京支部総会

4月17日(水) 会計監査

4月26日(金) 常任理事会

5月18日(土) 理事会及び総会準備会

ホテルグランシエール花巻

5月27日(月) 姉妹柳植樹式

7月14日(日) 定期総会

10月27日(日) 盛岡支部総会

11月5日(火) 第1回同窓会報編集委員会

まなび学園

平成26年

1月17日(金) 第2回同窓会報編集委員会

2月28日(金) 同窓会入会式

3月1日(土) 卒業式

まなび学園  
本校体育館  
本校体育館  
本校体育館



姉妹柳植樹式

## 母校だより

### 平成25年度 進路合格状況

#### 1 進学受験状況

9割近くの生徒諸君が進学を希望し進学校として躍進しています。推薦入試では、国立大学から専門学校まで、昨年を上回る94名の生徒が受験に挑みました。結果は以下のとおりとなり、昨年同様良い結果を残すことができました。特に、国立大学の推薦・AO受験は、17名が挑み、10名が合格。実に国立大学の推薦合格率は60%に迫る高い合格率でした。また、今年度医療看護系の専門学校を希望する生徒の推薦受験合格率は80%という他校を凌ぐほどの良い結果でした。四年制大学や医療・看護系専門学校を希望する生徒は例年多く、多くの生徒が受験生として頑張っています。この大晦日と元日を除いた年末年始に研修会館(同窓会館)で予備校主催センター試験直前模試や学

習会、特別講習を企画し、正月休み返上での先生方の熱意のある指導によって、受験に向けた万全のバックアップ体制を敷いています。

#### ● 主な合格先

(平成26年2月20日現在)

##### 〈国立大学〉

釧路公立大(1) 北海道

教育大函館校(1) 弘

前大(2) 岩手県立大

(2) 岩手大(2) 秋

田大(1) 都留文科大

(1)

##### 〈私立大学〉

岩手医大(1) 盛岡大(7)

東北学院大(11) 聖心女

子大(1) 日本大(3)

神奈川大(1) 東京経済

大(1) 明治学院大(1)

東北福祉大(2) 他

##### 〈短期大学〉

名寄市立大短大部(1)

盛岡大短大部(4) 岩手

看護短大(3) 仙台青葉

学院短大(1) 他

##### 〈医療系専門学校〉

国立仙台医療センター附



中に本校の就職内定率は100%を達成しましたが、これは花巻地区の高校では最も高い内定率の一つです。また、本年度、花巻市役所に2名内定(一般職、消防職)しました。競争率の極めて高い公務員試験への複数合格は特筆すべきことです。

#### ● 主な内定先

(平成26年2月20日現在)

伊藤組(事務1)、東北

大栄プラスチック(営業

事務1)、花巻温泉(サー

ビス1)、デンロコーポ

レーション(技能1)、

北上都心開発(サービス

1) 他

##### 〈各種専門学校〉

専大北上保育福祉専門学

校(3) 北上コンピュー

タアカデミー(4) 他

#### 2 就職内定状況

近年進学してから就職する方が有利だという思いが浸透し、ここ5年間の民間就職希望者は減少傾向にあり、今年度の統一選考試験受験者は18名でした。12月



南高61回生  
監事紹介

【学年代表幹事】

5組 菅原 星吉



責任を持つて学年代表として職務を全うしたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

【各クラス監事】

1組 石川 直征



一生自分が担当する役割になるので、責任とプライドを持ち、役割を全うしたいと思います。

茂庭 実輝



2組 鎌田 隼人



よりよい同窓会となるよう務めていきます。

高橋 和基



責任を持つて幹事の仕事をしたいと思っています。

3組 伊藤 正樹



初めて経験する役職なのでうまくできるか分かりませんが、しっかりこなせるように頑張りたいと思います。

八重樫 菜穂



大変だとは思いますが、一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

4組 畠山 香奈恵



4組2人で協力してクラス全員にしっかり連絡が行くよう頑張ります。よろしくお願いします。

晴山 翔



3年4組それぞれでできる幹事。情報の漏らさないよう、話をちゃんと聞く。

5組 吉田 知世



みんなが楽しめるような同窓会にしていきたいと思っています！



応援歌練習



修学旅行 東大寺



野外活動実習



修学旅行 韓国 南大門



避難(消火)訓練



公式野球部：夏の高校野球 4回戦進出 (ベスト16)

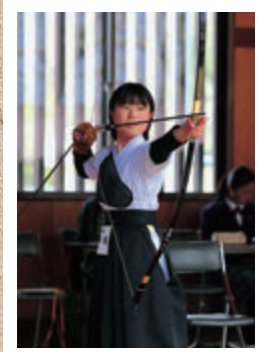
ソフトテニス部女子  
ハイスクールジャパンカップ全国大会出場  
インターハイ6回戦進出(高橋・藤村組)、  
4回戦進出(日高・千葉組)



ハンドボール部男子  
県高総体ベスト8  
県新人大会ベスト8



ハンドボール部女子：県新人大会第4位



弓道部：県新人大会団体3位



ソフトボール部：県新人大会ベスト8



体操部…高総体団体優勝、  
インターハイ出場、国体出場



陸上競技部…県新人大会男子  
4x400mリレー第3位  
東北大会出場



バレーボール部女子：県高総体ベスト8、新人大会ベスト8



JRC部：被災地訪問  
(清掃・交流活動)



吹奏楽：全日本ポップス&ジャズバンドグランプリ大会出場  
東京支部の同窓生と一緒に撮影



合唱部：同窓会総会をはじめ各種発表会に出演

# 国際交流 (海外ホームステイ研修)

昨年度は、韓国コース、ハワイコースへそれぞれ8名、16名と多くの生徒を海外派遣することができました。震災の復興状況の報告をはじめとし、様々なプログラムを通じて交流を図りました。

## 1. 韓国コース

派遣期間 平成25年3月14日(木)～3月18日(月)

派遣場所 韓国 安養外国語高等学校

参加生徒 1年4名 2年4名

## 2. ハワイコース

派遣期間 平成25年3月26日(火)～4月1日(月)

派遣場所 ハワイ レイレフア高等学校

参加生徒 1年5名 2年12名



景副宮



校門の前で記念撮影



オリエンテーションの様子



歓迎会での自己紹介



日本語の授業に参加



ウクレレ体験



日本の文化として折り紙を教えました



フラダンス体験、難しい!

## 編集後記

高橋 昭三

「おつかれさまです。」  
母校を訪れ、この暖かい響きをもった挨拶をうけるときはある。」と一人悦に入っております。

そもそも、挨拶とは社会生活に必要なくべからざるものですが、その用い方を誤ると甚だ具合の悪いことになります。

かつて、一人の報道関係者が、余人のさる行為を称えて

「苦労さまです。」  
と労いの言葉を掛けたところ、傍らの上司が、

「顔から火の出る思いがした。」

と、述懐しておりました。

言うまでもなく、「ご苦労様」「お疲れさま」は峻別されるべきところ、このことを全く弁えず、口を開けばただ一様に「ご苦労さま」としか云えない向きが存外多いことにいささか驚いております。ともあれ、挨拶の仕方一つで、その評価が一変することに、思いを致すべきです。

今回の会報作成に当たり、原稿をお寄せ下さいました方々、どうも有難うございました。

紙上より



編集委員長

高橋 昭三 (南2)

編集委員

鶴田やす子 (南1)

小瀬川陽子 (南5)

石川 映代 (南6)

齋藤ワカ子 (南11)

照井 重美 (南16)

葛巻久美子 (南18)

佐藤 仁美 (南37)

戸来 誠 (南41)

事務局

佐藤 陽子 (南23教諭)

葛尾 欣児 (南45教諭)